

令和7年度

事業報告書

公益財団法人広島平和文化センター

## 第1 事業報告書

令和7年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書  
(令和7年4月1日から令和8年3月31日まで)

### 1 設立目的及び概況

#### (1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

#### (2) 概況

##### ア 設立年月日

昭和51年4月1日

##### イ 基本財産

設立当初の基本財産は1,000万円(全額広島市出資)であったが、その後13億4,922万2,564円を増額し、令和3年度～4年度に3,224万円処分した。現在の基本財産は13億2,698万2,564円(うち広島市出資11億7,424万9,043円)である。

##### ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並

びに記念品の製作・販売

(カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託

(キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

## 2 役員等の状況

### (1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
副 理 事 長	1 人
常 務 理 事	1 人
理 事	1 8 人
監 事	2 人
評 議 員	1 4 人

### (2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和7年 4月 1日	監 事	秋 信 隆 雄	就 任
令和7年 6月 23日	理 事	大 芝 亮	重 任
〃	〃	香 川 剛 廣	重 任
〃	〃	神 部 泰	重 任
〃	〃	岸 本 伸 三	重 任
〃	〃	家 守 浩 司	重 任
〃	〃	高 橋 克 浩	重 任
〃	〃	谷 史 郎	重 任
〃	〃	茶 幡 博 子	重 任
〃	〃	豊 田 義 政	重 任
〃	〃	中 本 光 哉	重 任
〃	〃	西 本 尚 士	重 任
〃	〃	延 本 真 栄 子	重 任
〃	〃	畑 口 實	重 任
〃	〃	東 幸 仁	重 任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
〃	〃	ファンテ <sup>レ</sup> ルト <sup>ク</sup> ース <sup>ル</sup> 瑠 <sup>璃</sup>	就 任
〃	〃	松 井 一 實	重 任
〃	〃	丸 山 恭 司	就 任
〃	〃	宮 田 俊 範	重 任
〃	〃	村 岡 啓 道	重 任
〃	〃	森 川 伸 江	重 任
〃	〃	頼 信 直 枝	重 任
〃	〃	渡 部 朋 子	重 任
〃	〃	川 野 徳 幸	退 任
〃	〃	ピ <sup>ー</sup> ター <sup>・</sup> ゴ <sup>ー</sup> ル <sup>ス</sup> ハ <sup>ー</sup> リ	退 任
〃	代表理事	松 井 一 實	重 任
〃	〃	香 川 剛 廣	重 任
令和7年11月30日	理 事	宮 田 俊 範	辞 任
〃	〃	西 本 尚 士	辞 任
令和7年12月 1日	〃	道 菅 宏 信	就 任
〃	〃	佐々木 慎 二	就 任
令和7年12月31日	〃	中 本 光 哉	辞 任
令和8年 1月 1日	〃	清 水 皓 一	就 任
令和8年 3月31日	〃	大 芝 亮	辞 任
〃	〃	村 岡 啓 道	辞 任

イ 令和8年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月11日
理 事 長	香 川 剛 廣	令和 5年 2月 1日
副 理 事 長	谷 史 郎	令和 5年 4月 1日
常 務 理 事	森 川 伸 江	令和 6年 4月 1日
理 事	大 芝 亮	平成31年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	家 守 治 司	令和 6年 6月26日
〃	佐々木 慎 二	令和 7年12月 1日
〃	清 水 皓 一	令和 8年 1月 1日

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
〃	高 橋 克 浩	令 和 3年 4月 1日
〃	茶 幡 博 子	平 成23年 4月 1日
〃	道 菅 宏 信	令 和 7年12月 1日
〃	豊 田 義 政	令 和 6年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平 成23年 4月 1日
〃	畑 口 實	令 和 4年 4月23日
〃	東 幸 仁	令 和 5年 4月 1日
〃	ファンデルト <sup>カス</sup> 瑠璃	令 和 7年 6月23日
〃	丸 山 恭 司	令 和 7年 6月23日
〃	村 岡 啓 道	令 和 5年 4月 1日
〃	頼 信 直 枝	令 和 2年 4月 1日
〃	渡 部 朋 子	平 成23年 4月 1日
監 事	秋 信 隆 雄	令 和 7年 4月 1日
〃	廣 江 裕 治	令 和 4年 4月 1日

### (3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
令和7年 6月30日	評 議 員	中 島 典 子	辞 任
令和7年 7月 1日	〃	山 田 聖 美	就 任
令和7年11月13日	〃	植 野 実智成	辞 任
令和7年12月 1日	〃	西 本 尚 士	就 任
令和7年12月31日	〃	林 秀 樹	辞 任
令和8年 1月 1日	〃	山 下 竜 一	就 任
令和8年 3月31日	〃	池 上 忍	辞 任
令和8年 3月31日	〃	鈴 木 由美子	辞 任

イ 令和8年3月31日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	池 上 忍	平 成23年 4月 1日
〃	神 谷 研 二	令 和 元 年 7月 1日
〃	鈴 木 由美子	令 和 5年 6月28日

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
〃	多 田 チヤニトーン	平成23年 4月 1日
〃	西 村 千賀子	令和 7年 3月26日
〃	西 本 尚 士	令和 7年12月 1日
〃	古 谷 章 子	平成23年 4月 1日
〃	前 田 香 織	令和 7年 4月 1日
〃	箕 牧 智 之	令和 3年11月 1日
〃	矢 野 泉	令和 4年 4月 1日
〃	山 下 竜 一	令和 8年 1月 1日
〃	山 田 聖 美	令和 7年 7月 1日
〃	山 田 豊 子	令和 4年 4月27日
〃	山 本 匡	令和 4年 7月21日

### 3 理事会等の開催

#### (1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和7年 4月22日 (決議の省略)	第1回	1 令和7年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第1号議案)	原案可決
令和7年 5月27日	第2回	1 令和6年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業報告及び決算について (第2号議案) 2 公益財団法人広島平和 文化センター評議員会の 開催について (第3号議案) 3 職員の職務に係る倫理 の保持に関する状況及び 職員の職務に係る倫理の 保持に関して講じた施策 に関する報告について (報告第1号)	承認  原案可決  終了

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和7年6月23日 (決議の省略)	第3回	1 会長の選定について (第4号議案) 2 理事長の選定について (第5号議案) 3 副理事長(常務理事事務 取扱)の選定について (第6号議案) 4 常務理事の選定について (第7号議案)	選 定  選 定  選 定  選 定
令和7年7月11日 (決議の省略)	第4回	1 令和7年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第8号議案)	原案可決
令和8年3月24日	第5回	1 令和8年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業計画及び収支予算につ いて (第9号議案) 2 公益財団法人広島平和 文化センター評議員会の 開催について (第10号議案) 3 公益財団法人広島平和 文化センター令和7年度事 業実施状況報告(4~1月 分)について (報告第2号)	原案可決  原案可決  終 了

(2) 評議員会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和7年 4月 1日 (決議の省略)	第1回	1 監事の選任について (第1号議案)	選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和7年 4月25日 (決議の省略)	第2回	1 令和7年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第2号議案)	承 認
令和7年 6月23日	第3回	1 令和6年度公益財団法人 広島平和文化センター決 算について (第3号議案) 2 評議員の選任について (第4号議案) 3 理事の選任について (第5号～第26号議案) 4 令和6年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業報告について (報告第1号)	承 認  選 任  選 任  終 了
令和7年7月17日 (決議の省略)	第4回	1 令和7年度公益財団法人 広島平和文化センター収 支予算の補正について (第27号議案)	承 認
令和7年11月25日 (決議の省略)	第5回	1 理事の選任について (第28号議案)	選 任
令和7年11月30日 (決議の省略)	第6回	1 評議員の選任について (第29号議案) 2 理事の選任について (第30号議案)	選 任  選 任
令和7年12月26日 (決議の省略)	第7回	1 評議員の選任について (第31号議案) 2 理事の選任について (第32号議案)	選 任  選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
令和8年 3月26日	第8回	1 令和8年度公益財団法人 広島平和文化センター事 業計画及び収支予算につ いて (第33号議案) 2 評議員の選任について (第34号議案) 3 理事の選任について (第35号議案)	承 認  選 任  選 任

#### 4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

#### 5 職員の状況

令和8年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
経 営 管 理 課		2	1	1	3	4	4	15
平 和 文 化 企 画 課		1	1	1	4	5	1	13
平 和 学 習 課			1	1	1	5	1	9
平和首長会議・国際政策課			1		3	9	1	14
国 際 市 民 交 流 課		1		1	2	3	7	14
運 営 企 画 課	1		1	1	2	2	14	21
学 芸 展 示 課		1			3	8	3	15
国 際 会 議 場	1			1	3	4	4	13

国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館	1		1		1	6	6	15
計	3	5	6	6	22	46	41	129

(注) 局長級に平和記念資料館長、国際会議場館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、部長級に参事、国際市民交流担当部長及び平和記念資料館副館長を、課長級に国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、課長補佐級に国際会議場副館長を、係長級に主査及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員をそれぞれ含む。

## 6 運営体制の充実を図るための取組について

### (1) 組織運営の透明性と公正性の確保

- ア 理事会及び評議員会を定期開催し、その議事録を公開するとともに、事業報告書及び財務諸表を毎年度公開することに加え、秋には理事懇談会を開催するなど、透明性を確保しています。
- イ 広島市と連携し、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けた公益性の高い事業を実施しています。
- ウ 公益法人制度に基づき、本財団の事業内容に応じた監査体制を整備し、監事による業務監査・会計監査を実施しています。

### (2) 内部統制の整備

- ア 広島平和記念資料館、広島国際会議場及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営における内部手続について、施設管理、入札・契約、物品調達等に関する内部規程を整備しています。
- イ 財務書類を公開するとともに、公益目的事業比率を遵守し、公益法人としての財務基準を満たしています。

### (3) リスク管理・透明性向上（情報公開の充実）

- ア 事業報告書、財務諸表、定款及び役員名簿を公開し、公益法人として法定公開事項を整備のうえ、ウェブサイトで公開しています。
- イ 防災マニュアルを改定し、全職員を対象とした防災研修を定期的に行っています。

## 7 事業の実施状況等（決算額の一部は人件費を含む）

### I 事業の実施状況

#### (1) 公益目的事業1（平和推進事業）

##### ア 被爆体験継承普及事業

#### (ア) 修学旅行生への被爆体験講話等（決算額：2,529万8千円）

- a 学校等の依頼を受け、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者等を対象に、被爆体験証言者による被爆体験講話や原爆記録ビデオ等の上映を行った。また、夏休み期間中に、事前予約不要かつ無料の講話を開催した。

・被爆体験講話等実施件数

区 分	件 数	参 加 人 数
小 学 校	632 (579)	44,499 (40,739)
中 学 校	260 (235)	28,118 (25,516)
高等学校	126 (109)	16,467 (14,335)
そ の 他	726 (509)	17,730 (13,120)
計	1,744 (1,432)	106,814 (93,710)

※（）内は財団委嘱の講師による被爆体験講話で内数

- b 被爆体験証言者と高校生が共同で「原爆の絵」を制作し、完成した作品を被爆体験講話等に活用している。

- ・制作協力校：広島市立基町高等学校
- ・制作数：14作品（令和8年夏に完成予定）

#### (イ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：67万3千円）

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、複製したDVD等の貸出しや館内及びホームページでの公開を行った。

- ・オリジナル版DVD（1本に1名分）  
制作本数：2本（累計制作本数：1,153本）

#### (ウ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：3万4千円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、団体相互の情報

交換等を行った。

- ・開催日：令和8年3月12日（木）

(E) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：2万7千円）

国内の学生等を実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等での就業体験を通して、被爆地ヒロシマについて理解を深めてもらった。

- ・受入人数：6人

(F) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：13万円）

原爆や平和について考え、市民の平和意識の高揚を図るため、市民講座や朗読会を開催した。

- ・開催日：令和8年2月7日（土）
- ・来場者数：157人

(G) 国内原爆・平和写真展用資料の普及・活用（決算額：101万6千円）

原爆・平和写真展の開催や平和学習に取り組む国内の学校や各種平和団体、自治体等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及びパネルの貸出しを行った。

貸出資料	点数
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター	92点
ヒロシマ・ナガサキ原爆写真パネル	50
計	142

(H) 平和学習講座（決算額：34万2千円）

講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。また、ウェブ会議システムを利用した講座を実施した。

- ・登録講師：8人（令和8年3月31日現在）

依頼団体	回数
小・中・高等学校	81回
民間企業など	12
計	93

(ク) 平和記念資料館学習ハンドブック等の作成（決算額：290万円）

「広島平和記念資料館学習ハンドブック」、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」及び「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

作成資料		作成部数
ハンドブック	小学校4～6年生用	110,000
	中・高校生用	90,000
ワークブック	小学生用	60,000
	小学生指導者用	5,000
	中・高校生用	50,000
公園めぐり		120,000
計		435,000

(ケ) 国内原爆・平和展の開催（決算額：454万9千円）

国内原爆・平和展を以下の2都市で開催した。

① 東京都杉並区

- ・期間：令和7年8月2日（土）～8月15日（金）（14日間）
- ・会場：杉並区役所1階ロビー及び2階区民ギャラリー
- ・来場者数：4,487人

② 石川県金沢市

- ・期間：令和7年8月7日（木）～8月15日（金）（9日間）
- ・会場：金沢駅東もてなしドーム地下広場
- ・来場者数：2,526人

(コ) 国連大学でのヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター展の開催

（決算額：134万円）

国連大学において、「ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター展」を開催した。

- ・期間：令和7年7月11日（金）～8月17日（日）
- ・会場：国際連合大学2階マルチパーパススペース
- ・来場者数：約1,200人
- ・主催：国際連合大学、広島市、長崎市

(サ) 大阪・関西万博に合わせたヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催

(決算額：222万5千円)

国内外から多くの人を訪れる大阪・関西万博を好機と捉え、同博覧会開催期間中に大阪市内において原爆・平和展を開催した。

- ・期 間：令和7年8月22日（金）～12月27日（土）
- ・会 場：ピースおおさか（公益財団法人大阪国際平和センター）
- ・来場者数：約33,600人

(シ) 原爆・平和展、平和学習用資料の普及・活用（決算額：67万9千円）

国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆・平和展、平和学習用資料の貸出しを行った。

貸出資料	点数
DVD等映像資料	454点
市民が描いた原爆の絵（複製）、子どもたちの平和ポスター、絵本セット等	472
計	926

(ス) 被爆体験伝承者等による伝承講話の実施（決算額：792万8千円）

広島平和記念資料館において、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者等による講話を定時開催した。

また、学校等からの依頼を受けて、市内の会場に無料で被爆体験伝承者等を派遣し、伝承講話を行った。

さらに、国内外の学校からの予約申込により、ウェブ会議システムを使用したオンラインでの伝承講話を行った。

区 分		件 数	参 加 人 数
日本語での講話		1,618	54,406
内 訳	定時講話	1,066	12,032
	市内派遣講話	551	42,359
	オンライン講話	1	15
英語での講話		478	7,571
内 訳	定時講話	355	4,978
	市内派遣講話	122	2,573
	オンライン講話	1	20
計		2,096	61,977

(七) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,529万1千円）

a 展示による実物資料の劣化防止のため、資料の入替を実施した。また、所蔵フィルムのデジタルデータ化、レプリカ作製等必要な措置を講じるとともに、収蔵庫や展示室の環境調査を行い、改善を図った。

さらに、貴重なフィルム原板の一部については、長期保存・管理に適した施設に管理を委託した。

b 被爆者証言ビデオについて、デジタル化を推進するとともに、テキストデータ化・多言語化（日本語・英語字幕挿入）を進め、順次ホームページでの公開やYouTubeでの配信を行った。

(八) 広島平和記念資料館の企画展の実施（決算額：439万8千円）

常設展示を補完するとともに、再来館の動機づけとするため、また、未公開資料の活用及び資料館の調査・研究成果発表の機会とするため、企画展を年2回開催した。

① 第1回

- ・テーマ：「新着資料展—令和5年度寄贈資料」
- ・期 間：令和7年10月9日（木）～令和8年2月1日（日）

② 第2回

- ・テーマ：「被爆した東南アジアの留学生—国を超えた友情—」
- ・期 間：令和8年3月27日（金）～9月8日（火）（予定）

(ク) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：12万3千円）

日本平和博物館会議に、広島平和記念資料館職員3名が参加した。

- ・事務局館：立命館大学国際平和ミュージアム
- ・開催日：令和8年1月8日（木）～9日（金）

(フ) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：29万円）

資料や展示等に係る学術的知見の蓄積を図るため、学芸員が調査研究を行った。また、収蔵資料とその保存管理、展示環境等の課題解決を図るため、より専門的な知識を持つ研究者に委託し、調査研究を行った。

- ・調査・研究テーマ：2件
  - 「広島平和記念資料館収蔵資料等の地理空間情報に係る基礎研究」
  - 「展示資料の吸放湿性に関する基礎研究」

## イ 平和意識高揚事業

(ア) 平和学習の集いの開催（決算額：317万5千円）

「ヒロシマ平和学習受入プログラム」の一環として、各自治体から派遣された中学生等とファシリテーションの方法等を学んだ広島の中高校生（ユース・ピース・ボランティア）が、被爆体験講話を聴講し、グループ・ディスカッションなどを通して交流した。

- ・時期：令和7年8月5日（火）～7日（木）
- ・場所：広島国際会議場、広島市役所など7会場
- ・市外からの参加者数：こども828人、引率者285人  
計1,113人（72自治体（22都道県））
- ・内容：被爆体験講話の聴講、グループ・ディスカッションなど

(イ) 被爆80周年 第1回全国こども平和サミットの開催（決算額：184万2千円）

「ヒロシマ平和学習受入プログラム」の一環として、全国のこどもたちと広島の子どもたちが、共に被爆の実相を学び、それぞれの平和の取組を発表した。

- ・時期：令和7年8月6日（水）
- ・場所：広島国際会議場フェニックスホール

- ・参加者数：1, 202人
  - ①市外からの参加者数：こども708人、引率者281人  
(63自治体(19都道府県))
  - ②その他の参加者数：当日参加55人、広島市内の参加158人
- ・内 容：被爆体験講話の聴講、平和への取組発表など

**(ウ) 被爆80周年 第1回広島こども平和サミットの開催** (決算額：96万3千円)

平和文化月間の行事として、小・中・高校生に、「平和の種」を持ち帰ってもらい、こどもたちの平和への行動を後押しするため、こどもたちによるパネル・ディスカッションなどを行った。

- ・時 期：令和7年11月16日(日)
- ・場 所：広島平和記念資料館メモリアルホール
- ・参加者数：170人
- ・内 容：被爆楽器等の演奏、平和への取組発表、ユース・ピース・ボランティアによるパネル・ディスカッションなど

**(イ) 若い世代による被爆地での平和学習に対する支援** (決算額：2,449万9千円)

若い世代を平和記念式典に派遣し、あわせて、「ヒロシマ平和学習受入プログラム」に参加する基礎自治体に対し、国の補助金を活用した財政支援を行った。

- ・対 象：小・中・高校生を本市に派遣する基礎自治体
- ・支援自治体数：①派遣経費に対する補助 60自治体  
②市外宿泊地から平和記念式典への参列支援 4自治体

**(オ) 「平和学習を考える教師の集い」開催事業** (決算額：187万8千円)

広島修学旅行の実施割合が相対的に高くない、関東地域の公立中学校の教員等を対象に、広島修学旅行を集大成とした平和学習の取組を共有し、各地域での平和学習を推進するため、平和学習に関する研修を実施した。

- ・時 期：令和7年8月21日(木)～22日(金)
- ・場 所：広島平和記念資料館、本川小学校平和資料館等
- ・参加者数：21人
- ・内 容：被爆体験講話の聴講、平和学習に関する事例発表、広島大学大学院教授による平和学習の説明、グループ・ディスカッションなど

**(カ) 平和学習モニター校指定制度（決算額：238万6千円）**

広島修学旅行の実施割合が相対的に高くない、関東地域の広島修学旅行を初めて実施するなどの公立中学校を対象に、平和学習モニター校指定制度を運用し、あわせて、平和学習に関するノウハウ蓄積を進めた。

- ・ 支援内容：講師の派遣・学校間交流のマッチング等の事前・事後学習の支援、広島での平和学習、生徒1人当たり3,000円の助成金の支給
- ・ 指定校：8校（うち令和7年度修学旅行実施校：3校）

**(キ) 国際的平和学習用教材の開発（決算額：9万2千円）**

平和学習関連施設が発行する各種資料の収集・分析や、広島市内の小・中学校の平和学習の実施状況及び指導内容に関する調査を行うとともに、広島大学教育学分野の教員への聞き取り調査を実施し、国際的な平和学習の実態についての情報収集を行った。

**(ク) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：494万3千円）**

平和記念公園内の慰霊碑等のボランティアによる解説を行った。  
また、吉島小学校の平和学習の支援等を行った。

- ・ ボランティア登録者数：183人（令和8年3月31日現在）
- ・ 活動実績：公園内移動解説3,451団体（18,006人）

**(ケ) ユース・ピース・ボランティア事業（決算額：377万円）**

広島の若い世代が成人してからも広島の平和文化を支え、その中から各界で活躍する平和人材を輩出していくことを視野に入れ、広島大学及び広島市教育委員会とも連携し、ボランティア活動を量・質ともに高めるとともに、中学生、高校生、大学生の各段階に応じて一貫した活動と必要な研修を実施した。

**a 平和学習の集いの運営を行う中・高校生**

- ・ 実施内容：被爆の実相やファシリテーション方法等を学ぶ研修、「第1回全国平和学習の集い」におけるグループ・ディスカッションの進行など
- ・ 参加者数：333人（15自治体（5県））

- b 国連の研修事業、海外大学の広島研修等への対応など外国人に英語で対応する高校生・大学生
  - ・参加者数：138人

(㉓) 若者による「ヒロシマの心」の発信（決算額：87万2千円）

若者が主体的に核兵器廃絶を進める力を身に付け、国内外に発信していくことができるよう、専門家による講義や討論を内容とする専門研修を行った。

- ・実施内容：核軍縮等に関する講義や討論、長崎視察、ナガサキ・ユース代表団との交流、核兵器廃絶に向けた提言作成など
- ・参加者数：10人

(㉔) 広島平和文化センター・ボランティアスタッフ活動支援事業

（決算額：103万7千円）

各種事業に携わるボランティアスタッフ等の資質向上を図ることを目的に、体系的な研修を実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者、家族伝承者、ユース・ピース・ボランティア等
- ・内容：総合研修（3回）、英語研修（3回）ほか
- ・参加者：延べ370人

(㉕) 平和学習プロジェクト・チームの運営（決算額：98万6千円）

広島大学及び広島市教育委員会の参画を得て平和学習事業運営協議会を開催し、平和教育学に関する専門的知見を基礎としつつ、広島市立学校での平和学習との密接な連携を図りながら、本財団の平和学習に関する事業の充実を検討した。

- ・対象事業：「第1回全国平和学習の集い」、「第1回全国こども平和サミット」、「広島こども平和サミット」、「平和学習を考える教師の集い」、「平和学習モニター校指定制度」、「国際的平和学習用教材の開発」、「ユース・ピース・ボランティア」等

(ヌ) スポーツを通じた平和意識の醸成（決算額：20万円）

広島東洋カープやサンフレッチェ広島など広島のプロスポーツチームの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信し、市民の平和意識の高揚を図った。

a ピースナイターの開催

- ・時期：令和7年8月13日（水）
- ・場所：MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
- ・内容：① 大型ビジョンでの市長等のビデオメッセージ放映  
② 広島東洋カープの監督、選手等のユニフォームへのピースワッペンの装着 等

b サンフレッチェ広島新人選手の研修における平和学習の実施

- ・時期：令和7年12月13日（土）
- ・場所：エディオンピースウイング広島
- ・内容：ユース・ピース・ボランティアによる原爆被害の概要説明やサンフレッチェ広島新人選手とのグループディスカッション等

(セ) 平和文化の普及促進（決算額：1,232万2千円）

核兵器廃絶に向け、市民一人一人が日常生活の中で平和について考え、行動する「平和文化」を市民社会に根付かせ、平和意識を醸成する取組を実施した。

a 平和文化月間におけるイベントの開催等

広島市が「平和文化月間」と定めた11月を中心に、市民が主体となったイベント等を集中的に実施した。

① ポップカルチャーひろしま2025における平和文化コーナーの出展

- ・時期：令和7年10月19日（日）
- ・場所：NTTクレドホールロビー
- ・来場者数：112人
- ・内容：VRゴーグルの体験と平和へのメッセージの作成

② 「夏の雲は忘れないー被爆80年の記憶ー」朗読公演（市民団体との共催事業）

- ・時期：令和7年11月2日（日）
- ・場所：広島平和記念資料館

- ・来場者数：約 450 人
  - ・内 容：被爆 80 年の広島で、戦争を記憶する女優と広島の中学生在が原爆・平和を主題とした手記や詩を朗読した。
- ③ 広島こども平和サミット関連平和展示
- ・時 期：令和 7 年 1 月 16 日（日）
  - ・場 所：広島国際会議場
  - ・参加者数：約 110 人
  - ・内 容：4 団体による平和に関する展示発表（原爆の絵や平和メッセージ等の展示、折り鶴作成体験など）
- ④ 広島広域都市圏と連携した集客促進及び広報
- 広島広域都市圏と連携し、広報番組や特設ホームページ、イベントカレンダーを通じて平和文化月間の周知を図るなど、住民や観光客等による圏域の周遊を促す取組を実施した。
- ⑤ 広告媒体を活用した啓発活動の実施
- 平和大通りへのバナーの掲出、市内中心部や広島駅等の人通りの多い地点への啓発ポスターの掲出、市役所や区役所への懸垂幕の掲出等を行った。

#### b 年間を通じた取組

市民団体と連携した取組により、年間を通じて、市民一人一人に平和について考えてもらう機会を提供した。

#### (7) 国内に向けた平和推進事業の企画・実施等（決算額：73 万円）

多摩地域平和ユース研修事業による広島派遣者 26 人を受け入れ、研修プログラムへの支援を実施した。

- ・時 期：令和 7 年 8 月 20 日（水）～ 22 日（金）
- ・参加者数：東京都多摩地域在住の高校生・大学生 26 名
- ・内 容：被爆体験講話の聴講、平和記念資料館の見学、グループワークなど

#### (8) 機関紙の発行等（決算額：333 万 6 千円）

- a 市民の平和意識醸成とともに、国際世論の形成に寄与するため、和文・英文機関紙を発行するとともに、事業報告「平和と交流 2025 年版（令和 6 年度事業）」を作成し、ホームページに掲載した。
- ・内 容：和文機関紙 4 回 各 5,000 部

英文機関紙 2回 各1,500部

- b 本財団の活動に関する情報等をホームページを活用して適宜提供した。
  - ・ホームページアクセス件数：469,013件
  - (令和8年2月～3月分については、サーバー移行のため集計不可)

(f) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用

(決算額：355万2千円)

a 広島平和記念資料館ホームページ

広島平和記念資料館のホームページで、原爆・平和に関する情報を発信するとともに、ホームページの多言語化を行った。

- ・アクセス件数：2,010,928件
- ・内 容：資料館の利用案内、展示内容の紹介

b データベース

原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部をホームページで公開した。

- ・公開件数：106,490件
- ・内 容：資料館が所蔵・管理する被爆資料、写真、絵、動画等

(g) 情報資料室の管理運営 (決算額：286万7千円)

原爆・平和に関する資料・情報の収集・保存を行い、市民等の閲覧に供した。

- ・利用者数：12,531人

ウ 国際平和推進事業

(7) 被爆80周年特別国際シンポジウムの開催 (決算額：538万6千円)

「人道イニシアティブ」に内実を与え、力強く支えるヒロシマの役割について発信した。

時期：令和7年8月6日(水) 17:00～

内容：第I部 被爆者セッション

テーマ：「壊滅的な人道的結末」の具体的な内容

被爆者：梶本淑子氏、河野キヨ美氏、笠岡貞江氏

司会者：ファンデルドゥース・瑠璃 広島大学 平和センター長

①視聴「人類の壊滅を証明する広島原爆体験」（20分）

②被爆者による証言

## 第Ⅱ部 パネルディスカッション

テーマ：「人道イニシアティブ」に内実を与え、力強く支えるヒロシマの重要な役割

登壇者：中満 泉 国際連合事務次長

アレクサンダー・クメント オーストリア外務省軍備管理軍縮局長

メリッサ・パーク 核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）事務局長

黒澤 満 大阪大学名誉教授

カシット・ピロム 平和首長会議スペシャルアドバイザー  
谷 史郎 （公財）広島平和文化センター副理事長

司会者：中村 桂子 長崎大学核兵器廃絶センター（RECNA）  
准教授

### (イ) ヒロシマ平和新書の作成（決算額：18万4千円）

ヒロシマ平和新書の作成に当たり、国内外の専門家にコラムの執筆を依頼するとともに、表紙やカバーデザインを決定した。

### (ウ) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：296万5千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、朝日新聞社との共催によりシンポジウムを開催した（広島市と長崎市で交互に開催）。

- ・時 期：令和7年8月2日（土）
- ・場 所：広島国際会議場ヒマワリ
- ・参加者数：約450人

### (エ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：36万1千円）

国連が軍縮専門家の育成を目的に主催する「国連軍縮フェローシップ・プログラム」を支援するため、各国外交官等の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらう研修を実施した。

- ・時 期：令和7年6月29日（日）～7月1日（火）
- ・受入人数：24人（国連随行者2名を含む。）

(オ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：0円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、代表団を受け入れる予定で同協会と調整していたが、派遣の意思表示が同協会から示されなかったため、実施には至らなかった。

(カ) 海外へのオンライン被爆体験証言（決算額：58万1千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、オンラインによる被爆体験証言を行った。

- ・実施回数：14か国26都市・23回
- ・聴講者数：1,729人

(キ) 国外原爆・平和写真展用資料の提供（決算額：141万3千円）

原爆・平和展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

- ・貸出・提供点数：176点
- ・国・地域数：38か国・地域

[ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和写真ポスターの貸出・提供]

区 分	点 数
英語	27
スペイン語	13
イタリア語	9
ドイツ語	5
ハンデル	4
フランス語	4
日本語	3
ポルトガル語	3
アラビア語	1
チェコ語	1
計	70

〔映像資料等の貸出・提供〕

区 分	点 数
映像資料（DVD）	54
ポスター用データ	30
ハンドブック	22
計	106

(ク) ヒロシマ・ナガサキ原爆・平和展の開催（決算額：1,497万5千円）

海外の2都市において原爆・平和展を開催した。

① オーストラリア・パース市

- ・期 間：令和7年5月10日（土）～6月21日（土）
- ・場 所：ホームズ・ア・コート・ギャラリー
- ・入場者：約3,160人

② 米国・ホノルル市

- ・期 間：令和7年8月12日（火）～令和8年2月28日（土）
- ・場 所：戦艦ミズーリ記念館
- ・入場者：228,940人

(ケ) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：11万4千円）

国内外の大学・大学院の講座で、広島及び長崎における被爆体験の持つ意味を学術的に考察・検証し、伝えるものを「広島・長崎講座」として認定するとともに、その普及を図った。

- ・認定大学数：国内55大学、国外25大学（令和8年3月31日現在）
- ・支援内容：教材の提供、広島で現地学習を行う際のプログラムの調整等

(コ) ヒロシマ平和研究教育機構の運営（決算額：40万円）

① 国連軍縮研究所所長による学生向け講演会

- ・時 期：令和7年5月24日（土）
- ・場 所：広島国際会議場コスモス2
- ・参加者数：123人（学生80人、関係者43人）

② 国際シンポジウム

- ・時 期：令和7年12月21日（日）

- ・場 所：広島平和記念資料館メモリアルホール
- ・参加者数：208人

**(ウ) 平和首長会議の運営（決算額：899万3千円）**

加盟要請や加盟都市間の情報共有等の平和首長会議の運営を通じて、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・内 容：① 未加盟都市への加盟要請
- ② 加盟都市の活動情報の収集及びホームページやソーシャルメディアでの発信
- ③ 加盟都市への広島市・長崎市の平和宣言の送付
- ④ メールマガジンの発行
- ⑤ 平和首長会議情報システムの運用保守
- ⑥ 平和首長会議サポーター制度の運用 等
- ・平和首長会議加盟都市数：166か国・地域8，566都市  
(令和8年3月1日現在)

**(シ) 平和首長会議の活動展開（決算額：4,112万8千円）**

令和3年7月に策定した「持続可能な世界に向けた平和的な変革のためのビジョン」（略称：PXビジョン）の三つの目標の下で、行動計画に掲げる取組を進め、平和を構築していくための世界的な活動展開を図った。

**a 第11回NPT再検討会議第3回準備委員会への出席**

- ・期 間：令和7年4月27日（日）～5月2日（金）
- ・場 所：米国・ニューヨーク市
- ・内 容：NGOセッションでのスピーチ、国連・各国政府関係者との面会、サイドイベントの開催等

**b 「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名活動の展開**

- 区役所等へ署名箱を設置するとともに、平和首長会議ホームページやソーシャルメディアを通じて署名の呼び掛けを行った。
- ・署名数：3,302,389筆（令和8年3月1日現在）

**c 平和首長会議加盟都市への被爆樹木の種・二世の苗木の配布**

- 被爆樹木の種・二世の苗木の配布、説明標識の配布等を行った。
- ・配布実績：（国内）32都市  
（海外）4か国・11都市

**d 次代を担う青少年を中心とした市民の平和意識の啓発**

平和首長会議加盟都市による取組の好事例をメールマガジンやホームページで紹介するとともに、こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテストを実施した。

【こどもたちによる“平和なまち”絵画コンテスト2025】

- ・募集期間：令和7年4月21日（月）～10月31日（金）
- ・参加国数・都市数：19か国153都市
- ・応募総数：8,079点

**e アジア地域における加盟都市及び国連関係機関等との協議**

アジア地域における活動活性化に向け、加盟都市のほか、現地の国連機関や大学等と協議を行った。

- ・時期：令和7年10月5日（日）～11日（土）
- ・訪問先：タイ・バンコク都、インドネシア・ジャカルタ市

**f 大阪・関西万博における発信力強化**

- ・時期：令和7年8月～12月
- ・場所：関西地域の複数加盟都市
- ・内容：平和首長会議原爆・平和ポスター展等

**(ヌ) 平和首長会議インターンシップ（決算額：289万7千円）**

平和首長会議の加盟都市から若手職員等を広島に招へいし、各加盟都市との連携強化を図るとともに、インターンシップ終了後にそれぞれの都市において取組の推進を図った。

また、国内加盟都市の職員を対象にオンライン研修を開催し、各都市における活動の活性化を図った。

**① 海外加盟都市インターンシップ**

- ・期間：令和7年11月12日（水）～26日（水）
- ・参加者：1人（カナダ・モントリオール市）

**② 国内加盟都市インターンシップ**

- ・期間：令和8年2月4日（水）～6日（金）

- ・参加者：15人（北海道函館市、北海道北広島市、山形県山形市、千葉県流山市、千葉県我孫子市、東京都文京区、東京都世田谷区、東京都日野市、東京都福生市、新潟県上越市、新潟県長岡市、愛知県名古屋市、愛知県大府市、長崎県長崎市、鹿児島県鹿児島市）

③ 国内加盟都市職員を対象としたオンライン研修

- ・期 日：令和7年10月17日（金）
- ・参加者：126人

(七) 青少年「平和と交流」支援事業（決算額：358万7千円）

平和首長会議の海外加盟都市の青少年に対し、被爆地で被爆の実相についての理解と参加者との交流を深めることを目的に実施している事業への参加を支援した。

- ・事業名：青少年国際平和未来会議2025ヒロシマ
- ・時 期：令和7年8月1日（金）～9日（土）
- ・人 数：8人

(八) NPT再検討会議等への平和首長会議ユース派遣事業（決算額：760万6千円）

NPT再検討会議第3回準備委員会に、高校生を平和首長会議ユースとして派遣し、国連関係者に「核兵器禁止条約」の早期締結を求める署名を届け、ヒロシマのメッセージを発信するとともに、あわせて平和人材としての育成を図った。

- ・派遣期間：令和7年4月27日（日）～5月3日（土）
- ・派 遣 先：米国・ニューヨーク市
- ・派遣人数：高校生8人

(九) 第11回平和首長会議総会への参加（決算額：476万9千円）

被爆80周年となる令和7年8月に長崎市で第11回平和首長会議総会を開催し、会長都市として出席した。

- ・時 期：令和7年8月7日（木）～10日（日）
- ・場 所：長崎県長崎市

## エ 施設の管理運営

### (7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営（決算額：3億2,531万6千円）

厚生労働省からの受託事業として、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営を行った。

・入館者数：515,784人

（平成14年8月の開館以降の入館者数：6,289,885人）

#### a 原爆死没者の氏名・遺影の登録・公開

原爆死没者の氏名・遺影を登録し、館内で公開した。

・原爆死没者氏名・遺影の登録状況

氏名・遺影	氏名のみ	計
人	人	人
26,226	3,204	29,430

#### b 被爆体験記の収集・整理・公開

被爆体験記を収集・整理（データベース化）し、館内で公開した。

・被爆体験記の収集・整理状況（令和8年3月31日現在）

区 分	収集数	整理数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記 (H7)(注1)	編 81,203	編 81,203	% 100.0
厚生労働省収集分被爆体験記 (H17)(注1)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記 (H27)	11,397	11,285	99.0
独自収集分被爆体験記(注 2)	3,870	3,869	99.9
図書（被爆体験記集等）	(6,556冊)	43,060 (3,092冊)	(47.2)
計	—	151,195	—

(注1) 厚生省収集分被爆体験記(H7)及び厚生労働省収集分被爆体験記(H17)：厚生省(当時)及び厚生労働省が各年度に実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

(注2) 独自収集分被爆体験記：平成9年度以降、独自に収集した被爆体験記をいう。

### c 企画展の開催

- ① テーマ「受け継ぎ、語り継ぐ ―広島の惨禍と被爆者の思い―」
  - ・期 間：令和7年3月7日（金）～令和8年2月28日（土）
  - ・内 容：被爆80周年を念頭に、原爆被害の全体像に迫るため、主に5つのテーマ（「被爆時の惨状」「地域社会と家族の崩壊」「長期的・持続的な障害」「精神的・心理的打撃」「次世代への伝言」）に沿った複製体験記を設置し、被爆者のことばを通して被爆の実相を伝えた。
  
- ② テーマ「受け継ぎ、語り継ぐ ―原爆と第一県女―」
  - ・期 間：令和8年3月1日（日）～令和9年2月28日（日）
  - ・内 容：原爆により生徒・教職員合わせて301名が犠牲となった広島県立広島第一高等女学校、通称「第一県女」。被爆した第一県女の生徒、そしてその最期を看取った家族の声を、体験記や映像、資料を交え紹介する。

### d 被爆者証言ビデオの制作

広島県外在住被爆者の証言映像を収録し、保存するとともに、館内やインターネット上で公開した。

- ・県外在住被爆者収録者数：6人  
（北海道1人、神奈川県1人、大阪府1人、鳥取県2人、島根県1人）

### e 被爆体験記の朗読事業

- (a) 修学旅行等で広島を訪れた児童生徒を対象に、被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。

また、広島市内の学校等へ出向く出前朗読会や、来館者が事前予約不要かつ無料で参加できる定期朗読会を開催した。

- ・朗読会開催回数：132回

- (b) 独自での朗読会を希望する団体等に、朗読セットの貸出しを行った。

- ・朗読セット貸出件数：8件

### f 平和学習講習会でのPR

広島市と広島市教育委員会が共同で行う平和学習講習会において、学校

関係者等に対し、伝承講話・朗読会の実演を行う等被爆体験継承の取組を説明し、PRを行った（リモート2回）。

#### g 被爆体験記執筆補助

高齢等により一人では執筆が困難な被爆者を対象に、被爆体験の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・聞き取り人数：4人（広島県内在住の被爆者を対象に公募）

#### h 多言語化対応事業

海外からの来館者に、被爆の実相を母国語で伝えるため、被爆者証言ビデオの翻訳字幕の作成、被爆体験記の翻訳を行った。

##### ① 証言ビデオ

- ・翻訳字幕作成本数：1言語2本〔累計：25言語1, 366本〕

##### ② 被爆体験記

- ・翻訳編数：3言語44編〔累計：24言語1, 525編〕

#### i 被爆体験伝承者等派遣・語学研修

被爆体験証言者、被爆体験伝承者、被爆体験記朗読ボランティア、家族伝承者及び原爆体験伝承者（東京都国立市が養成）を国内外に派遣した。

- ・証言講話：32回（7回）
- ・被爆体験伝承講話：678回
- ・家族伝承講話：69回（5回）
- ・原爆体験伝承講話（国立市）：35回
- ・朗読会：49回

※（ ）内は国外派遣の実施回数で内数

#### j インターネットによる情報提供

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の事業内容をホームページで紹介するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して広く情報提供した。

- ・アクセス件数：国立広島原爆死没者追悼平和祈念館ホームページ

463, 408件

平和情報ネットワーク 15, 284, 058件

## **k 情報展示システムの保守・管理**

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性の確保を図るため、情報展示システムの保守・管理を行った。

## **l 施設の管理等**

経年劣化の機器の取替え等、各種設備機器の保守管理をはじめとする施設の管理運営を行った。

## **m 被爆 80 周年記念事業**

### **(a) 特別企画展の開催**

「爆心 3 キロ圏の人々―被爆体験記が伝える あの時―」

・ 期 間：令和 7 年 8 月 1 日（金）～ 8 月 3 1 日（日）

・ 内 容：被爆体験記を交えながら、爆心地からの距離別に被害を解説し、被爆の実相をわかりやすく伝えた。

### **(b) 被爆体験記集の作成・配付**

執筆補助事業で収集した被爆体験記を取りまとめて被爆体験記集を作成し、広島県内の中学校・高等学校等を中心に各都道府県被爆者団体など 6 5 9 か所へ配付した。

## **(イ) 広島平和記念資料館の管理運営（決算額：4 億 102 万 4 千円）**

令和 4 年度からの 5 年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

令和 5 年の G 7 広島サミットや昨今の厳しい国際情勢を背景として、これまで以上に広島平和記念資料館への関心が高まる一方、館内混雑が深刻化していることから、令和 6 年 2 月から運用開始した w e b によるチケット購入・予約システムの継続や、令和 6 年 3 月から開始した開館時間の延長、令和 6 年 7 月の自動券売機の設置等により、引き続き混雑対策と来館者サービスの向上に努めた。

・入館者数

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	2,043,558	1,843,830	199,728
小 人	537,368	214,702	322,666
計	2,580,926	2,058,532	522,394

(ウ) 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：14万9千円）

(イ) 核兵器の非人道性とその廃絶の取組に関する展示の整備

（決算額：2,462万9千円）

緊迫する国際情勢の中で、これまで以上に核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図り続けていくことが重要との認識の下、東館1階情報コーナーをリニューアルし、被爆者による証言と人類と核兵器は共存できないことを伝える「ヒロシマは訴える」コーナーを整備し、3月28日（土）にオープンした。

(オ) こども向けの平和学習展示の整備（決算額：2,951万2千円）

令和10年度を目途に、児童・生徒の平和学習の効果を高めることを目指し、その特性を踏まえた展示を東館地下1階に整備するに当たり、今年度は展示実施設計を実施した。また、その検討に当たり、有識者から展示構成や展示手法等について助言を得ることを目的とした展示検討会議を計3回開催した。

(カ) 被爆遺構展示管理運営（決算額：777万3千円）

建屋（保存・展示施設）の維持管理運営を行った。

・入館者数 153,863人

## (2) 公益目的事業2 (国際交流・協力事業)

### ア 国際交流・協力推進事業

#### (7) 国際交流・協力事業への助成 (決算額：52万9千円)

市民レベルの多文化共生及び国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している市民団体が自主的に企画・実施する国際交流・協力事業や多文化共生事業に対して、次のとおり助成を行った。

・名称：多文化共生・国際交流補助金

区 分	助成団体数
広島市内で行う多文化共生、国際交流・国際協力の推進を目的とする事業 (次の場合を除く)	5 団体
広島市内で行う国際交流・国際協力の推進を目的とする事業 (広島市と姉妹・友好提携等に関する協定を締結している都市から青少年を招致して人的交流を行う場合)	1

#### (イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営 (決算額：166万8千円)

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりを進めた。

また、国際市民交流課のホームページを活用し、加入団体の活動情報等を発信した。

- ・内 容：加入団体への情報提供、研修室・ボランティア活動コーナーの貸出し等
- ・加入団体数：143団体
- ・研修室貸出し件数：673件

#### (ウ) 国際フェスタの開催 (決算額：338万7千円)

市民の多文化共生や国際交流・協力に対する関心を高めるとともに、市内の国際交流・協力活動団体間の交流を促進するため、「国際フェスタ2025」を開催し、文化体験コーナーやセミナー、展示、バザー等を行った。

- ・期日：令和7年11月16日 (日)
- ・場所：広島国際会議場、平和大通り緑地帯
- ・内容：① 主催者、共催者事業

ジャーナリストの丸山ゴンザレスさんを講師とするトークショー（JICA中国）等全34事業

② 公募企画事業

ひろしまを英語でガイド（平和のためのヒロシマ通訳者グループ）等全10事業

③ 公募3事業

活動紹介展示（参加12団体）、国際協力バザー（参加7団体）、世界の屋台（参加11団体）の3事業

以上、全47事業を実施

- ・主催：本財団（国際市民交流課、国際会議場）
- ・共催：独立行政法人国際協力機構中国センター、広島市
- ・参加団体：67団体
- ・来場者：約2,200人

(I) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営  
(決算額：263万2千円)

a 姉妹・友好都市の日「記念イベント」の開催

広島市が海外の6つの姉妹・友好都市ごとに設定した「姉妹・友好都市の日」に、市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図った。

① 大邱の日

- ・期 日：令和7年5月3日（土）～5月5日（月）
- ・場 所：ひろしまフラワーフェスティバル会場
- ・内 容：セレモニー、大邱市立少年少女合唱団及び広島市立吉島東小学校・中島小学校合唱クラブによる合唱、大邱広域市の紹介・展示、韓国家庭料理の実演販売等
- ・参加者：約3,700人

② ハノーバーの日

- ・期 日：令和7年5月25日（日）
- ・場 所：広島駅南口地下広場
- ・内 容：セレモニー、ドイツ・ハノーバー市の紹介、ソーセージやバウムクーヘン等の試食、ドイツ音楽コンサート等
- ・参加者：約330人

③ モントリオールの日

- ・期 日：令和7年7月5日（土）
- ・場 所：紙屋町スウィング（紙屋町シャレオ西通り）
- ・内 容：セレモニー、カナダ・モントリオール市の紹介、音楽コンサート、メイプルシロップやモントリオールスタイルベーグル等の販売等
- ・参加者：約180人

④ 重慶の日

- ・期 日：令和7年10月18日（土）
- ・場 所：広島市留学生会館 2階ホール等
- ・内 容：セレモニー、中国・重慶市の紹介、青少年交流の活動報告、和紙ちぎり絵や春節の飾り等の制作体験コーナー、フルスの演奏や中国民族舞踊と二胡のパフォーマンス等
- ・参加者：約180人

⑤ ホノルルの日

- ・期 日：令和7年11月8日（土）
- ・場 所：広島駅南口地下広場
- ・内 容：セレモニー、ハワイ・ホノルル市の紹介、ウクレレコンサート、ハワイアンバンドの生演奏とフラのパフォーマンス等
- ・参加者：約220人

※ ボルゴグラードの日については、ロシアによるウクライナ侵攻が続く中で、市民の理解を得ることが難しいこと等から、令和6年度に引き続き開催を見送った。

**b 「ヒロシマ・メッセンジャー」の募集・選考**

「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案・進行を担当するほか、学校の国際理解学習の講師等として活動する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集・選考した。

- ・募集期間：令和7年10月1日（水）～10月31日（金）
- ・選考人数：姉妹・友好都市ごとに各2人、計10人

(ボルゴグラード市の募集は行わなかった。)

・任 期：令和8年1月1日(木)～12月31日(木)

## イ 国際化推進事業

### (ア) 国際交流員及び多文化共生講座講師による交流事業の実施

(決算額：11万8千円)

#### a 派遣事業

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校や広島市の関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に国際交流員を派遣した。

・派遣回数：3回

#### b 対話事業

国際交流員及び多文化共生講座講師(外国人)により、市民と自由なトピックで対話する「Have a Chat!」を、対面及びオンラインで開催した。

・実施回数：24回(対面12回、オンライン12回)

・参加人数：延べ145人(対面延べ121人、オンライン延べ24人)

### (イ) 情報紙の発行(決算額：9万1千円)

多言語の生活情報紙「Hiroshima NOW」を作成・配布し、外国人市民の生活に役立ててもらった。また、これらの情報をウェブサイトでも提供した。

・作成言語：やさしい日本語、英語、スペイン語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語

・発行数：月1回発行、各言語80部

・配布先：広島市関係機関、広島市内の日本語ボランティア教室、広島県内国際交流団体等

### (ウ) 国際交流・協力団体との連携(決算額：26万4千円)

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、関係機関との連絡会議や地域国際化協会の研修会等に参加した。

その他、関係する二国間団体の総会等に参加し、意見交換等を行った。

**(エ) 通訳ボランティアの研修・派遣事業（決算額：22万1千円）**

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない市民を支援するため、通訳ボランティアを募集・登録し、必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所等行政機関や学校、国際的会合等に派遣した。

**a 派遣事業**

- ・派遣数：39件、延べ54人

**b 研修事業**

- ・期 日：令和8年2月14日（土）
- ・内 容：語学研修 英語  
通訳としての心構え・倫理研修
- ・参加者：15人

**(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業（決算額：2,794万4千円）**

日本語で円滑にコミュニケーションすることができない外国人市民等に対して、多言語で対応できる相談窓口を開設し、窓口や電話での相談、生活関連情報の提供、行政機関への同行通訳等を行うとともに、広島出入国在留管理局職員による在留資格等に関する専門相談を月1回（第2金曜日）実施した。

また、ウェブサイトを活用して8言語（やさしい日本語、英語、スペイン語、中国語、ハングル、フィリピン語、ベトナム語、ポルトガル語）で生活関連情報の発信を行った。

さらに、ウクライナ避難者を支援するため、ロシア語・ウクライナ語通訳者の手配を行った。

- ・対応件数：1,100件（相談：491件、通訳504件、翻訳105件）

**a 総合相談窓口**

- ・対応言語：スペイン語、中国語、ベトナム語、ポルトガル語、英語、フィリピン語  
※ その他の言語については、翻訳タブレットを活用するほか、他団体等と連携し対応
- ・開設場所：広島国際会議場3階 国際市民交流課内
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日、年末年始、8月6日を除く）

フィリピン語のみ第1及び第3水曜日並びに金曜日  
午前9時～午後4時

**b 巡回相談**

- ・安芸区役所区政調整課内：月2回（ポルトガル語、スペイン語）
- ・市営住宅基町管理事務所内：月1回（中国語）、3月27日（金）  
（ベトナム語）※試行的実施

**(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業（決算額：850万1千円）**

外国人市民の日本語能力向上のための日本語講座等を開催するとともに、地域の日本語教室を担うボランティアの育成やスキル向上のための講座等を実施した。

**a 日本語教育コーディネーター（総括コーディネーター1名、地域コーディネーター2名）の配置**

- ・期間：令和7年4月～令和8年3月

**b 入門レベルの日本語講座の開催**

**(a) 春期講座**

- ・期間：令和7年5月8日（木）～7月24日（木）全22回
- ・受講者：12人

**(b) 秋期講座**

- ・期間：令和7年10月3日（金）～12月19日（金）全22回
- ・受講者：12人

**(c) ウクライナ避難者に対する少人数日本語講座**

- ・期間：適宜（各世帯40時間）
- ・受講者：1世帯1人

**c 日本語教育関連事業**

**(a) 「やさしい日本語」連続講座**

**① 夏期講座**

- ・期日：令和7年8月20日（水）、8月27日（水）、9月13日（土）
- ・受講者：25人

② 冬期講座

- ・期 日：令和8年1月19日（月）、1月26日（月）、2月2日（月）
- ・受講者：24人

(b) 文化交流イベント

- ・期 日：令和8年2月14日（土）
- ・内 容：世界の人たちと一緒に ヘナアートワークショップ
- ・参加者：13人

(c) 外国人による多文化共生講座 講師養成研修

- ・期 日：令和7年6月1日（日）、6月15日（日）、6月29日（日）
- ・内 容：プレゼンテーション作り、発表練習
- ・受講者：4人（講師登録 4人）

d 日本語ボランティア養成講座（Ⅰ～Ⅲ）

(a) 日本語ボランティア養成講座（Ⅰ～Ⅲ）

養成講座Ⅰ 初級レベル（日本語ボランティア活動経験のない方）

- ・期 間：令和7年9月27日（土）～10月25日（土） 全5回
- ・受講者：36人

養成講座Ⅱ 中級レベル（日本語ボランティア歴1～2年の方等）

- ・期 間：令和7年5月12日（月）～6月23日（月） 全7回
- ・受講者：21人

養成講座Ⅲ 上級レベル（日本語ボランティア歴3年以上の方等）

- ・期 間：令和6年5月15日（木）～6月26日（木） 全7回
- ・受講者：13人

(b) ボランティアスキルアップ講座

- ・期 日：令和7年8月17日（日）
- ・受講者：22人

e 地域の日本語教室立ち上げへの支援

日本語ボランティア養成講座修了者等による、新たな地域の日本語教室の立ち上げを推進するため、必要なノウハウや教材等を提供する相談対応を実施した。

**f 広島市日本語教室ネットワーク会議の開催**

- ・期 日：令和 8 年 2 月 1 7 日（火）
- ・内 容：地域日本語教室ボランティア間の意見交換、情報提供
- ・参加者：17 人（15 教室）

**(キ) 外国人市民のための生活ガイドブックの作成（決算額：172 万 2 千円）**

広島市に転入する外国人向けに、日常生活に必要な行政サービスや生活関連情報をまとめた「外国人市民のための生活ガイドブック」を作成（時点修正）し、広島市及び本財団ホームページで公開した。

また、二次元コードを読み込むことで外国人市民のための生活情報サイトに繋がり手軽に情報を入手することができるリーフレット版「外国人市民のための生活ガイドブック」を作成し関係機関に配布した。

- ・作成言語：やさしい日本語、英語、中国語、スペイン語、ハンガル、フィリピン語、ベトナム語、ポルトガル語（8 言語）
- ・作成部数：9, 000 部

**(ク) 災害時の外国人市民支援に係る研修の実施（決算額：25 万 3 千円）**

**a 外国人市民のための防災研修会**

外国人市民の防災意識を高めるため、外国人市民を対象に地域コミュニティでの防災イベントや広島市総合防災センターにおける防災研修を行い、災害リスクへの認識を深めるとともに、防災意識の向上を図った。

**① 第 1 回**

- ・期 日：令和 7 年 1 2 月 7 日（日）
- ・場 所：西区古田公民館
- ・内 容：日本人住民とともに、レクリエーション形式で防災に関するクイズ等を実施した後、非常食を試食した。
- ・参加者：30 人（日本人住民 20 人、外国人住民 10 人）

**② 第 2 回**

- ・期 日：令和 8 年 2 月 2 8 日（土）
- ・場 所：広島市総合防災センター
- ・内 容：防災に関する講義、地震体験等
- ・参加者：34 人

## b 災害通訳等ボランティア研修会

広島市が運営する災害通訳等ボランティアを対象に災害時における対応を身につけ、通訳・翻訳の能力を高めるための研修を行った。

- ・期 日：令和8年2月7日（土）
- ・内 容：語学研修（英語）、災害時における通訳場面のロールプレイング、やさしい日本語講座、避難所巡回訓練等
- ・参加者：15人

## ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,185万4千円）

### (7) ひろしま奨学金の支給

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生在が、経済的な問題に影響されることなく、安心して学業に専念できるよう奨学金を支給した。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

### (4) 奨学生を対象とした平和学習

被爆の実相や核兵器廃絶に向けた取組を学ぶとともに、ヒロシマを発信する活動を積極的に行ってもらうことにより、「平和」を通じた国際交流の推進を図った。

- ・期 日：令和7年7月21日（月）
- ・受講者：30人

## (3) 収益事業等

### ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：2億4,999万7千円）

#### (7) 出版事業

「広島平和記念資料館総合図録ーヒロシマをつなぐー」（英語版）

- ・増刷部数：5,000部

「広島平和記念資料館ガイドブック」（英語版）

- ・増刷部数：10,000部

#### (イ) 販売事業

原爆・平和関係のグッズ、図書等を、令和8年3月5日にリニューアルオープンした広島平和記念資料館内のミュージアムショップ（ピースクリエーションファクトリー）で販売した。

#### (ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

常設展示や遺品等の詳しい解説が聴ける音声ガイドの貸出しを行った。

なお、令和8年1月1日より、音声ガイドの使用料を1台500円に改定した（改定前1台400円）。

- ・解説言語：日本語、英語、中国語、韓国・朝鮮語、フランス語、スペイン語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、ロシア語、タイ語、アラビア語、インドネシア語、フィリピン語、ウクライナ語（15言語）
- ・貸出件数：169, 121件

#### イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：705万2千円）

臨時売店等での飲食等の販売、飲料水自動販売機の設置、コピーサービス、ケータリングの手配等を行った。

#### ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億9,123万4千円）

令和7年度からの5年間、広島市から指定管理者の指定を受けており、施設及び設備機器の管理運営を行った。

##### [ホール及び会議室の利用状況]

区 分	貸出可能 区分数	利 用 区分数	利用率	利用件数
	区分	区分	%	件
フェニックスホール	1,077	491	45.6	196
国際会議ホール（ヒマワリ）	1,077	375	34.8	173
大会議室（ダリア）	2,154	801	37.2	314
中会議室（コスモス）	2,154	892	41.4	284
小会議室（ラ）	2,154	766	35.6	284

ン )				
会 議 運 営 事 務 室	1,077	599	55.6	365
展 示 室 ( サ ク ラ )	418	302	72.2	115
計	10,111	4,226	41.8	1,731

(注) 利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合。

## II 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たり、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

(令和8年3月31日現在)

名 称	所 在 地	区 分	現 在 高
広島平和記念資料館 (東館)	広島市中区中島町 1番2号	建物	事務室等 635.39 m <sup>2</sup>
広島国際会議場	広島市中区中島町 1番5号	建物	事務室等 473.42 m <sup>2</sup>

## III 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。